

近畿地方整備局 道路部道路計画第一課	発表日時	平成16年12月27日(月) 14:00
記者発表		

件名	平成16年度直轄国道事業意見交換会の開催結果について
----	----------------------------

概要	直轄国道を管理する国土交通省と、地域住民の生活を直接預かる各府県・政令指定市の実務担当者による「直轄国道事業意見交換会」を、平成16年11月19日(金)～12月10日(金)に行いましたので、概要を紹介します。 なお、この意見交換会は近畿地方整備局道路部では初めての試みであり、今後も継続する予定です。 1．会議名称：平成16年度 直轄国道事業意見交換会 2．開催日：H16.11.19(金)京都市 H16.11.24(水)大阪府 H16.11.25(木)兵庫県 H16.11.26(金)京都府、和歌山県 H16.11.29(月)滋賀県、大阪市 H16.11.30(火)奈良県、神戸市 H16.12.10(金)福井県 3．出席者：整備局：道路計画第一課長、道路管理課長、 交通対策課長 等 府県市：道路部局の課長、室長 等 4．会議次第：○道路行政のマネジメントについて ○今後の直轄国道事業の展開について 5．会議結果：別紙のとおり
----	--

取り扱い	_____
------	-------

発表場所	近畿地方整備局 8階 近畿建設記者クラブ (近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ)
------	---

問い合わせ先	近畿地方整備局 TEL 06-6942-1141(代) 道路部 道路計画第一課長 池口正晃 (内線 4211)
--------	---

平成16年度 直轄国道事業意見交換会の開催について（会議要旨）

直轄国道を管理する国土交通省と、地域住民の生活を直接預かる各府県・政令指定市の実務担当者が、直轄国道の新築・改築、維持管理等の進め方について、来年度の予算編成作業が開始されるこの時期に意見交換会を実施。

交換会では、地域が抱える道路交通の課題と今後の取り組み、昨年度から始まった道路行政マネジメントの課題を中心に直轄国道について情報や意見を交換。

（１）道路行政のマネジメントについて

府県市の方々と連携した道路行政マネジメントに取り組みの一環として、今回は直轄国道について、昨年度に実施した整備により地域の課題がどの程度解消したのかを「達成度」として結果を説明

【主な意見】

府県市：近畿特有、府県特有の課題は異なるし、東京中心の表現では地域の住民に理解してもらえない。これからは地域に合った表現を工夫する必要がある。

整備局：住民の方も共有できる課題を把握することは重要であり、課題を共有することで整備による効果が住民の方にもわかりやすくなると思う。

府県市・整備局（確認事項）

現在、府県市と国とが協力して、府県単位の達成度と計画書を作成しているところであるが、未だに作成できていない状況である。今年度は初めての取り組みで、データの収集・解析、とりまとめなどに時間がかかっているのはしかたないが、本来は予算の要求作業と連携すべきで、来年度からは夏までに作成できるよう努力することで確認。

近畿で作成済みは、滋賀県、和歌山県の2県（12/16現在）

(2) 今後の直轄国道事業の展開について

各地で進められている直轄国道事業の現在の状況及び今後の進め方について、国の考え、府県市の考えを意見交換。

【主な意見】

府県市：この時期に意見交換の機会を持つことはとても意義がある。直轄国道事業の今後の方針を聞くことで、県の政策にも反映できる。

今後も引き続き、意見交換をお願いしたい。

整備局：今後も直轄国道事業の進め方等について、できる限り意見交換の場を設けて、府県市の皆さんと連携を図りたい。

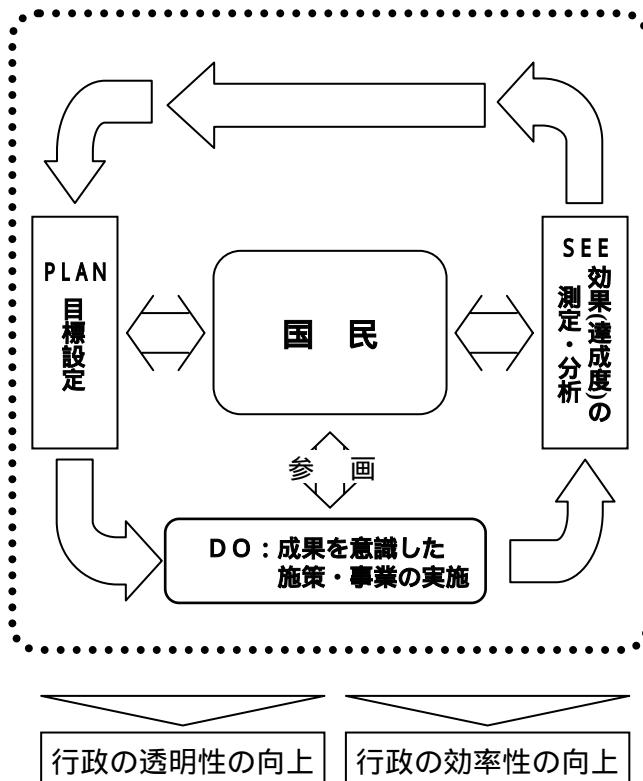
府県市：高規格幹線道路をはじめとする直轄国道は、地域の道路網の骨格であり、経済の活性化、日常生活の向上など期待は大きい。地域環境との調和、住民との対話等を大切にして整備の促進に努めてもらいたい。

整備局：近畿地方には、京奈和自動車道、第二京阪道路、京都縦貫自動車道など、整備が急がれる路線が多い中で、効果的な整備が図れるよう努めたい。また、道路行政マネジメントは、その一環としており、わかりやすい直轄国道事業を進めていく。

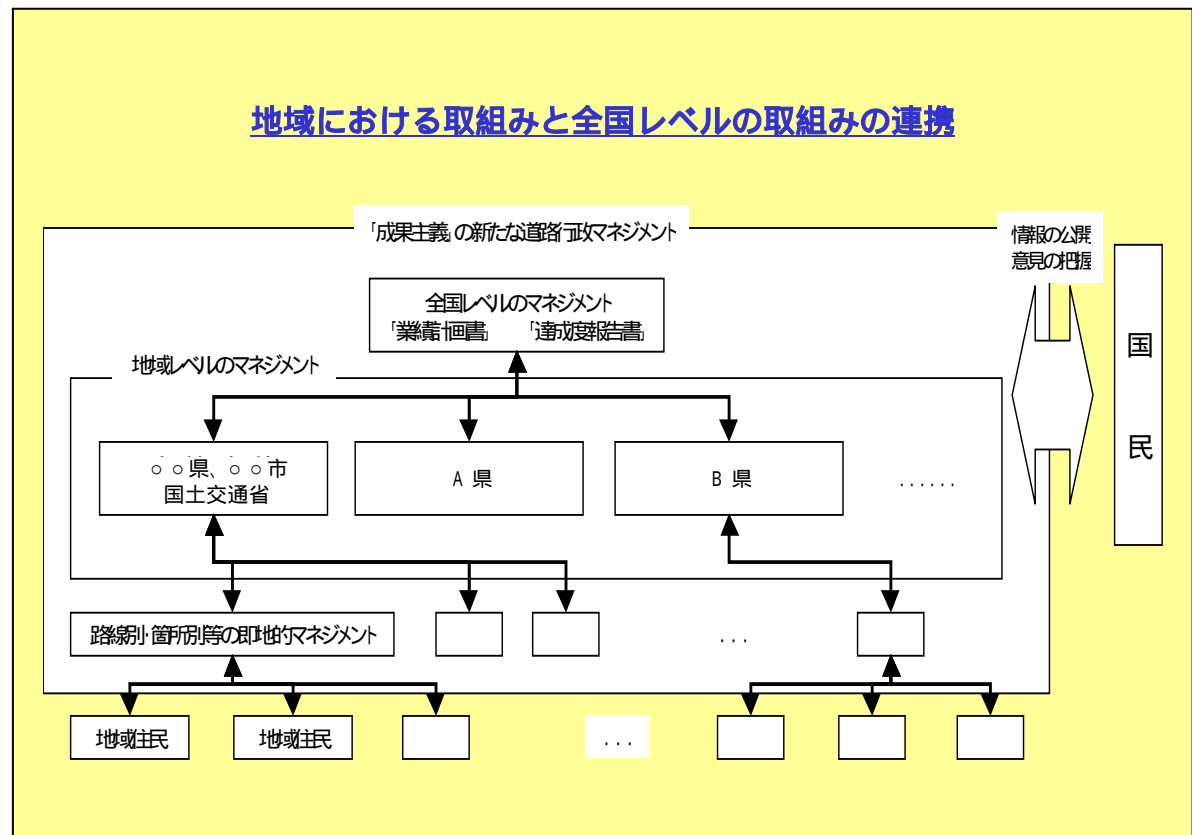
成果重視の道路行政マネジメントについて

1. 平成15年度より道路行政マネジメントを導入。(全国版「平成15年度道路行政業績計画書」)
2. 整備局においては、過年度の整備効果(達成度)について測定、分析を実施。
3. 地域における取り組みとして、府県域毎の業績計画書・達成度報告書を作成中。

マネジメントサイクルのイメージ



地域における取り組みと全国レベルの取り組みの連携



近畿の道路整備における効果事例

～アウトカム指標で見た整備効果～

- 渋滞(渋滞損失時間)
 - 交通安全(死傷事故率)
 - 規格の高い道路を使う割合
- インターチェンジ30分圏市町村カバー率

渋滞損失時間に対する成果達成状況

○ 地域別のH14年度とH15年度の渋滞損失時間の増減

- 平成15年度、近畿の渋滞損失時間は5.8億人時間/年で、前年に比べ約5%減少
- 新たな供用路線のある地域では、渋滞損失が著しく軽減されている。

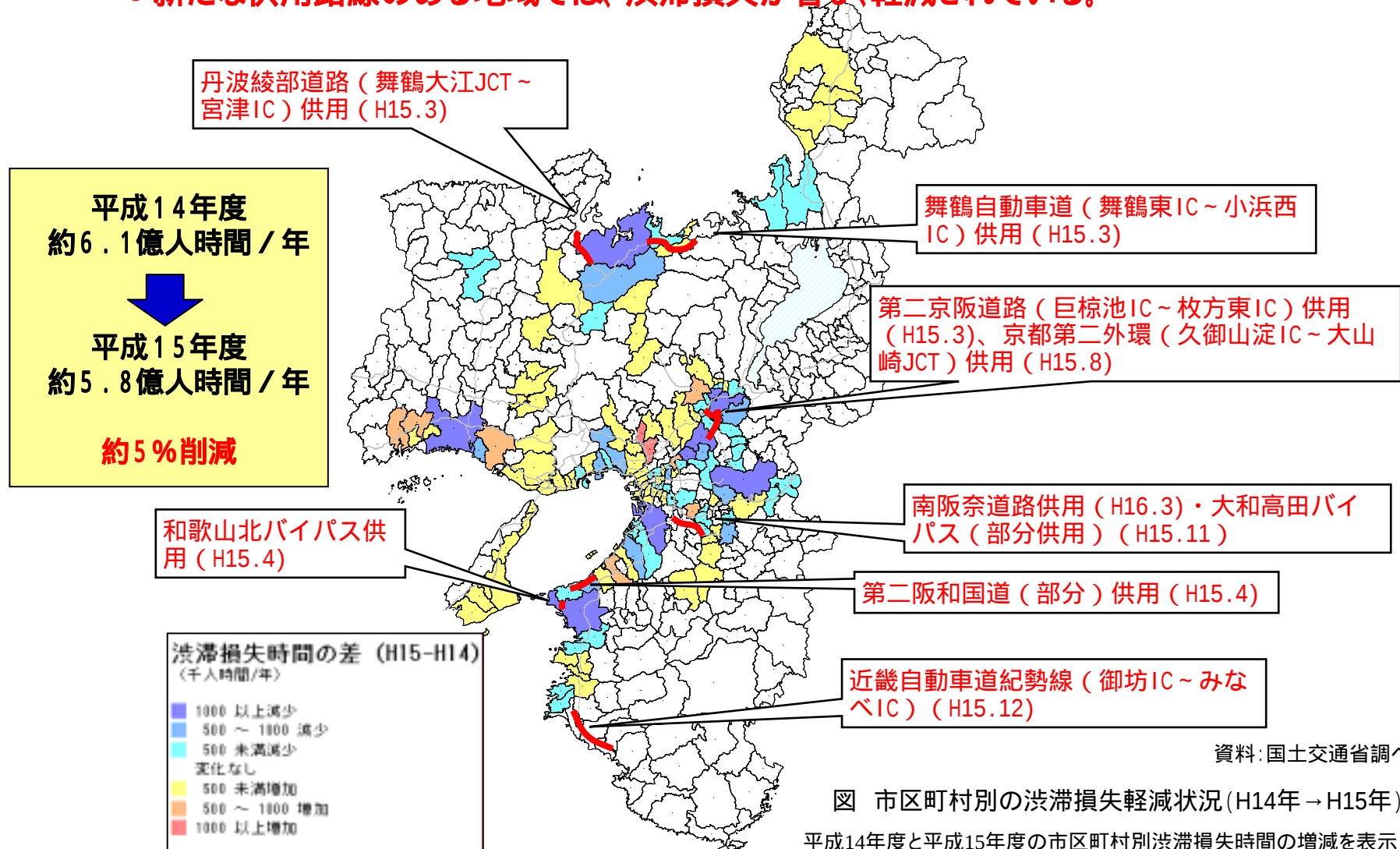
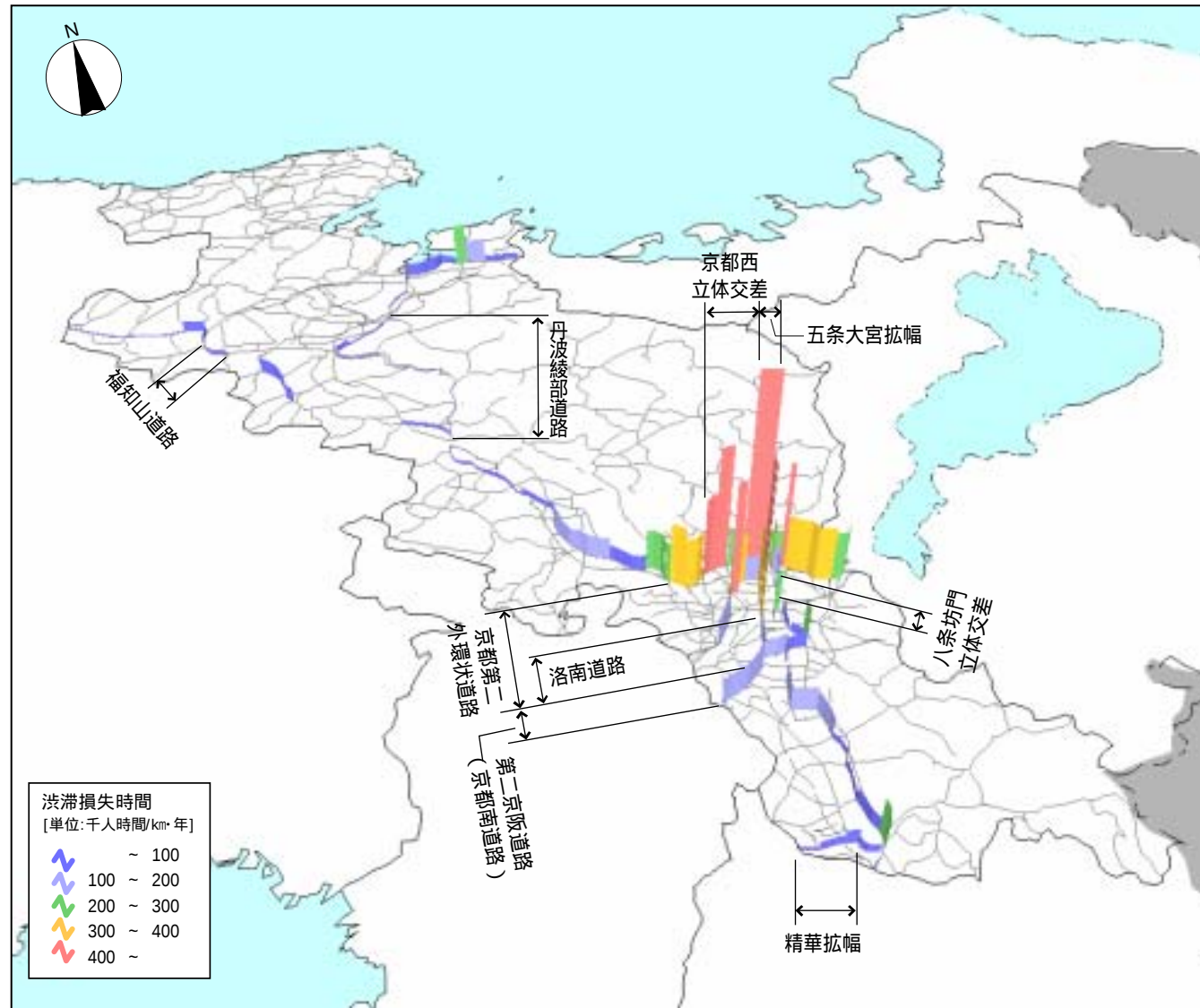


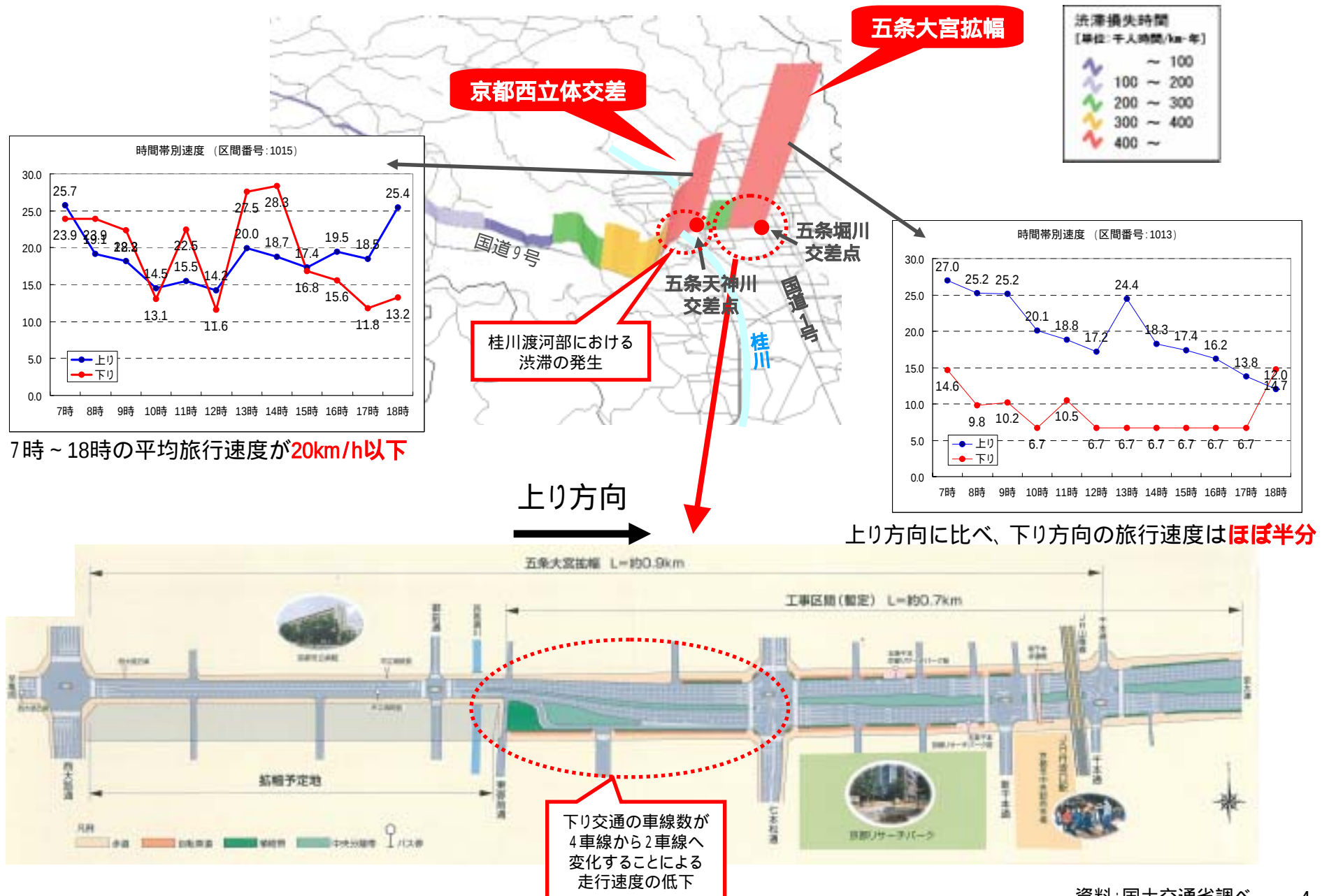
図 市区町村別の渋滞損失軽減状況(H14年→H15年)

平成14年度と平成15年度の市区町村別渋滞損失時間の増減を表示

京都府の1kmあたり渋滞損失時間(H15年度末データ:直轄国道)



国道9号における渋滞とその対応状況



第二京阪道路開通による整備効果事例（平成15年3月開通）

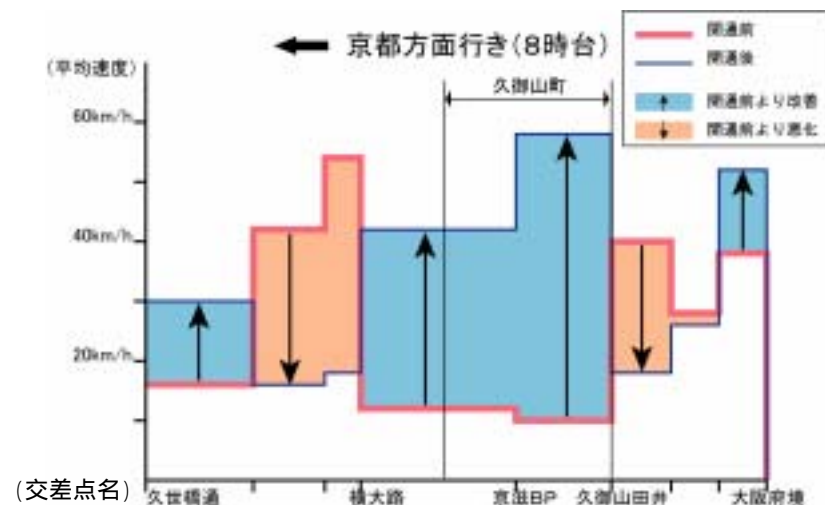
渋滞緩和及び生活道路の環境を改善

第二京阪道路の開通により

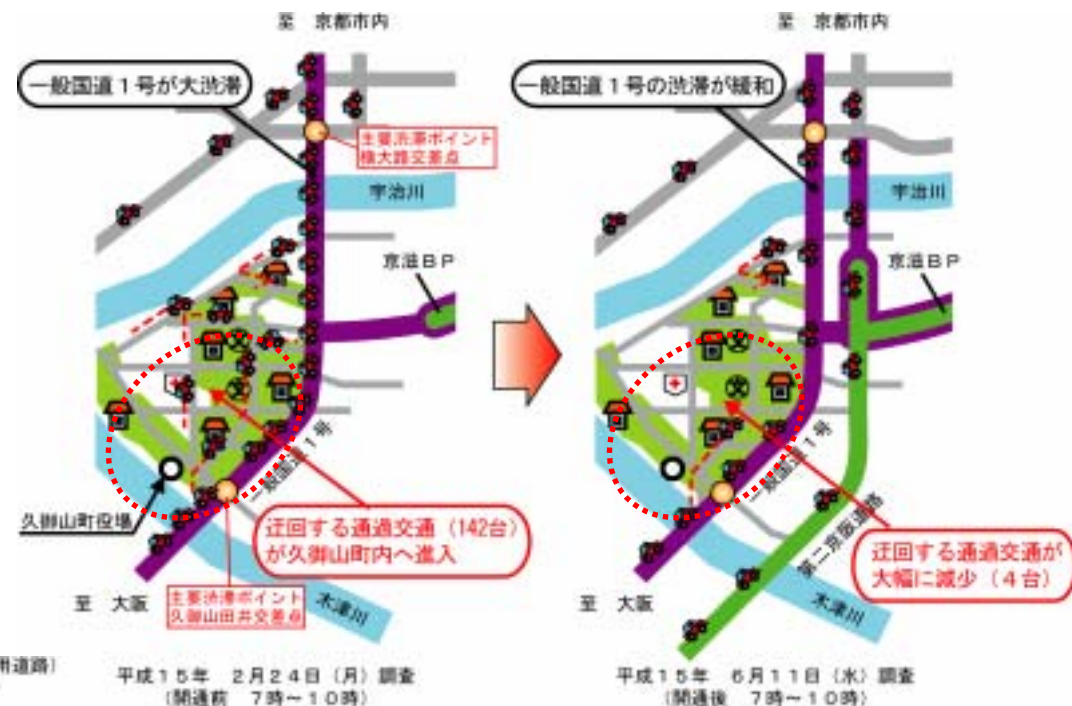
国道1号の渋滞が緩和、旅行速度も向上

朝の通勤時間帯の

国道1号から生活道路への迂回交通が激減



第二京阪道路開通前後の国道1号の走行速度

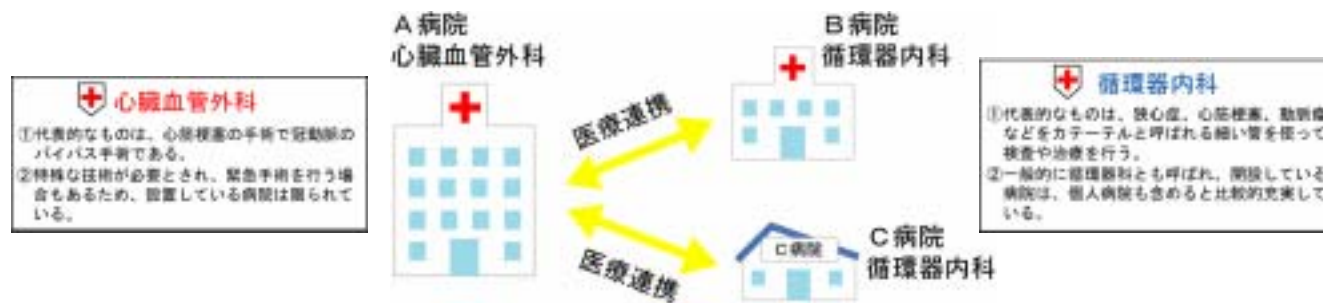


第二京阪道路開通による整備効果事例（平成15年3月開通）

巨椋池IC～枚方東IC間の部分開通による救急医療体制の確立

枚方市東部地域で24時間体制の循環器内科を開設している病院はありませんでした。

第二京阪道路が部分開通したことにより、約30分で枚方・京都間を緊急搬送が可能となり、枚方市東部にある京阪奈病院と京都市にある武田病院が、救急医療連携体制を確立させ、**京阪奈病院に24時間体制の循環器内科が開設されました。**

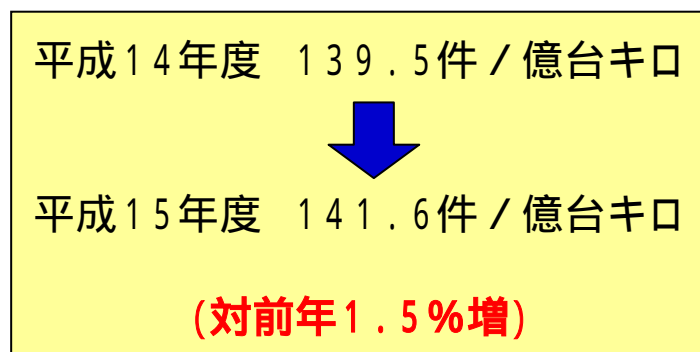


一般に循環器内科で検査や治療を行い、心臓血管外科で外科手術を行う。
連携して緊急手術を行う場合、**短時間で病院間を搬送出来ること**が条件となる。

平成15年10月～平成16年6月の
8ヶ月間で京阪奈病院へ救急搬
送された71件(循環器系疾患)
うち京阪奈病院で処置できた
ケースは62件、9件は武田病院
へ搬送。月に2～3件の搬送が
あり、増加傾向にある。

死傷事故率に対する成果達成状況

- 平成15年度、近畿の死傷事故率は、141.6件 / 億台キロで前年に比べ1.5%増加となった。



府県別に見ると、京都府、奈良県、和歌山県、福井県で減少。

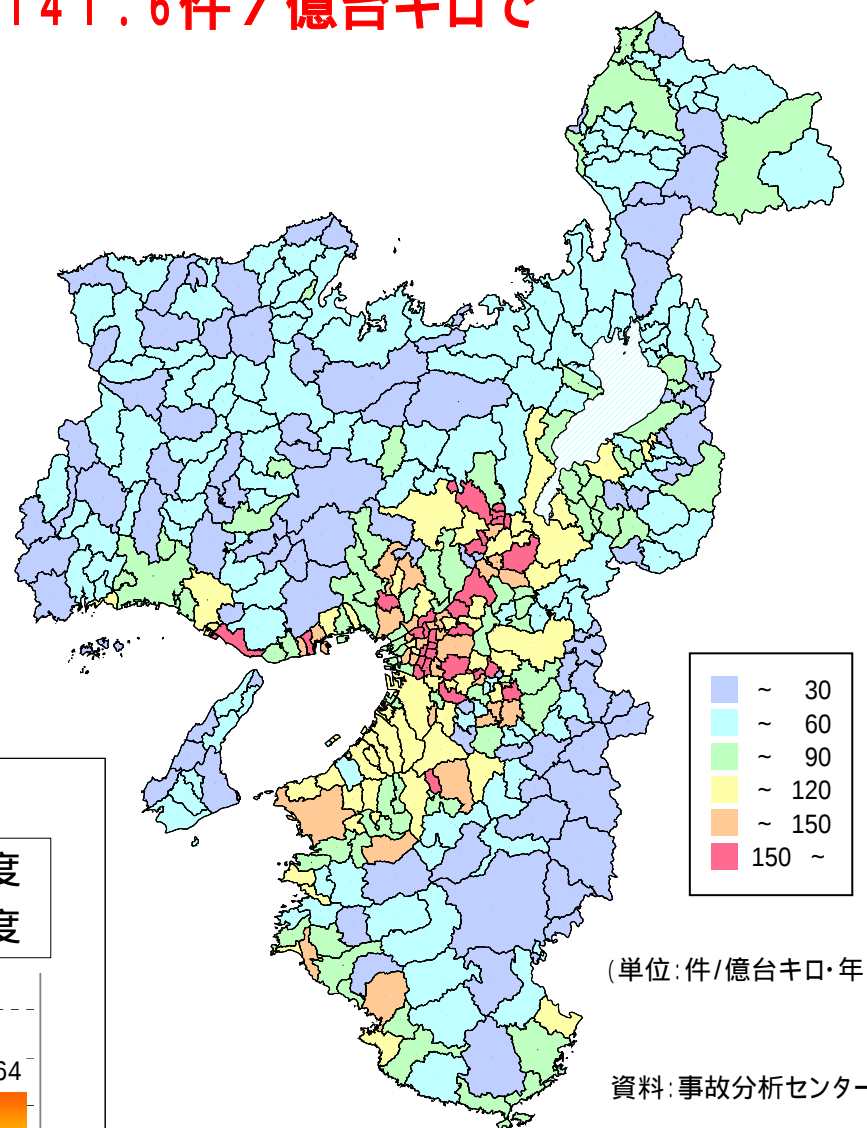
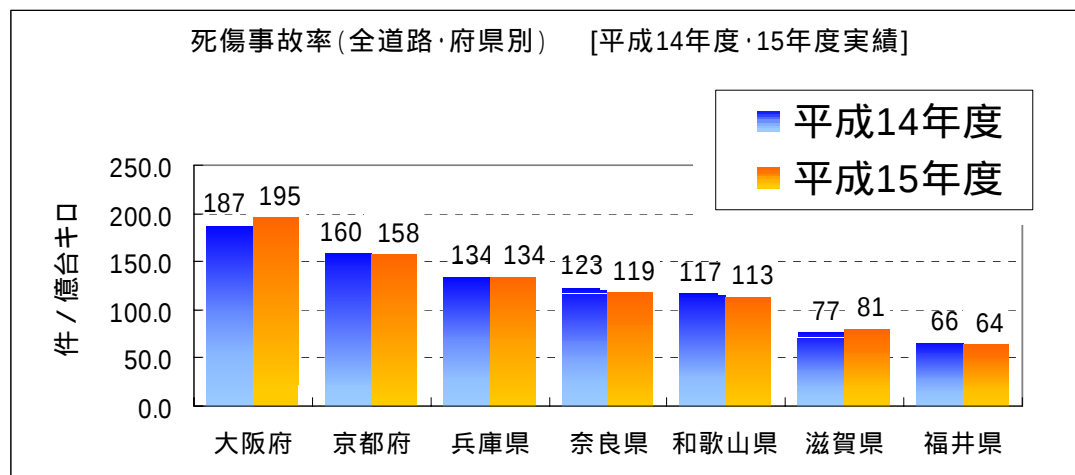


図 市区町村別の死傷事故率(平成13年)

規格の高い道路を使う割合の成果達成状況

平成15年度、新たに自動車専用道路が供用した区間を含む生活圏で、規格の高い道路を使う割合が増加。

近畿全体での規格の高い道路を使う割合は、前年に比べ0.1%とわずかなが、地域別には顕著な増加が見られる。

平成14年度 19.5%
↓
平成15年度 19.6%

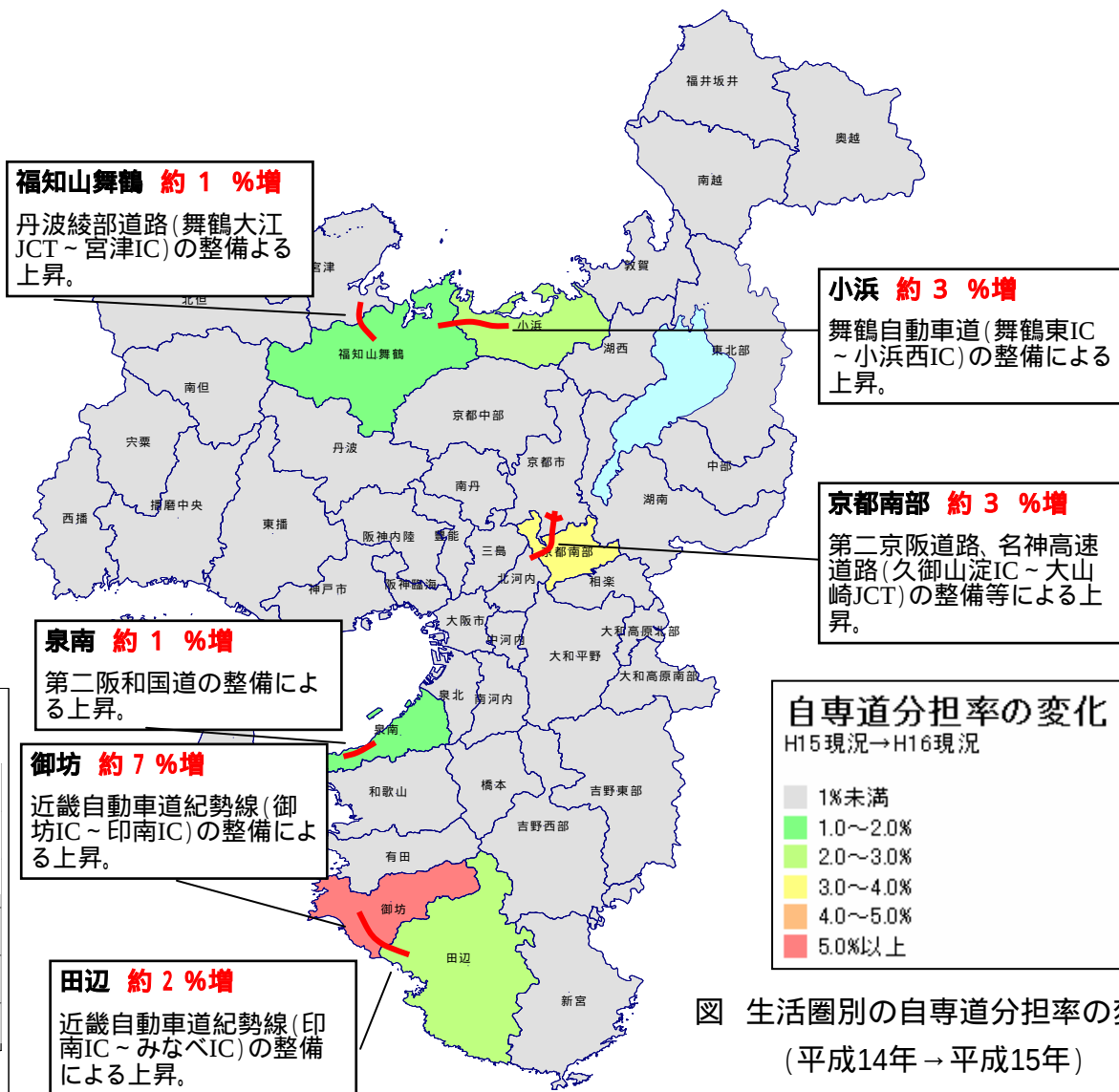
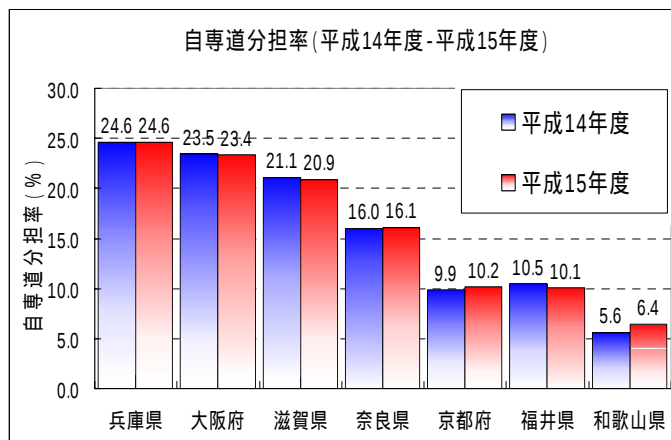


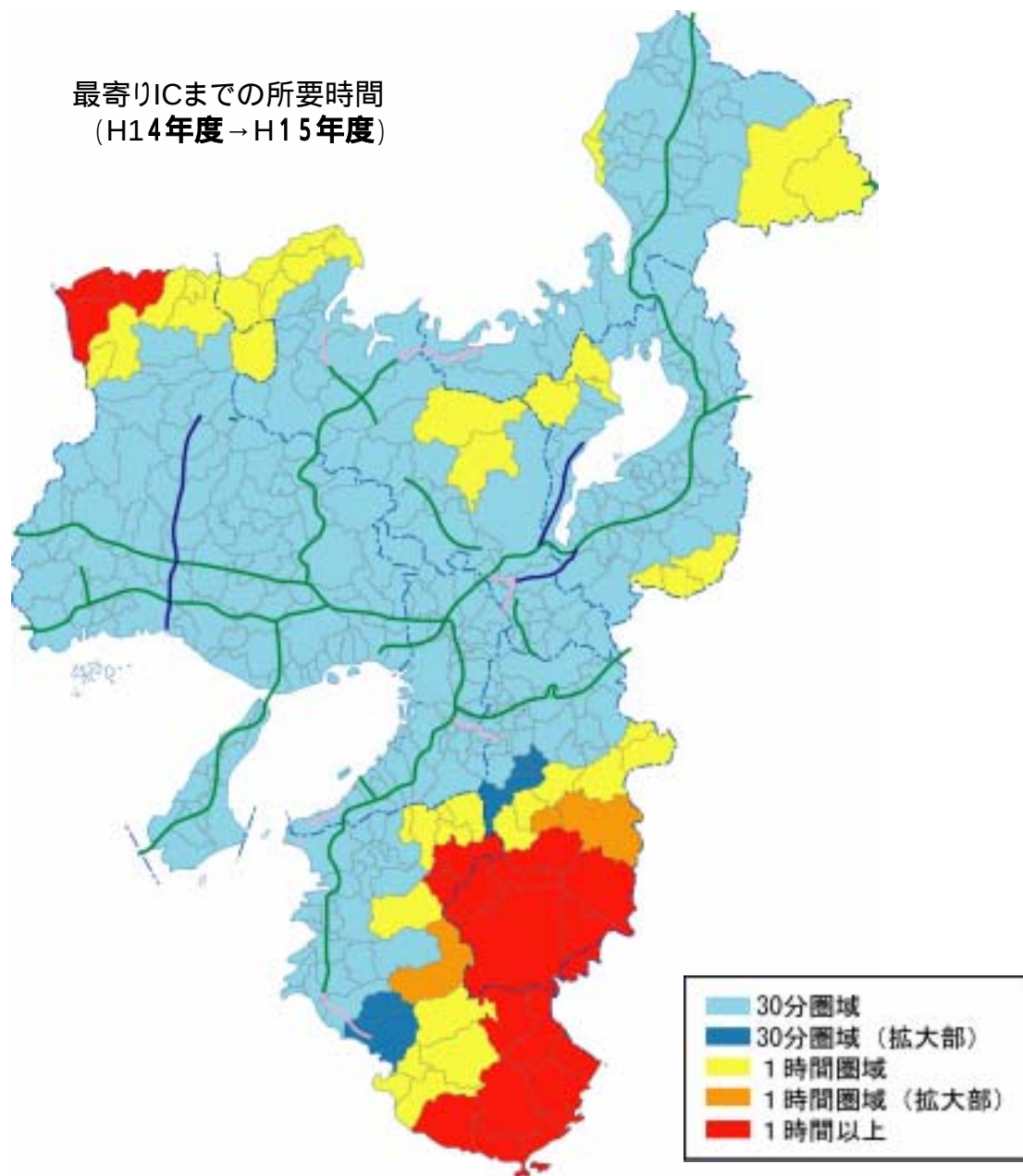
図 生活圏別の自専道分担率の変化
(平成14年→平成15年)

資料:国土交通省調べ

インターチェンジ30分圏市町村カバー率の向上

平成14年度に比べ平成15年度は、新たに7市町村が最寄りのインターチェンジまで30分で到達できるようになった。

資料: 国土交通省が開発したNAVINET
(総合交通体系分析システム)を用いた試算



近畿における主な開通予定箇所



【平成16年度開通予定】

- 国道2号相生拡幅 L=0.6km
- 国道26号第二阪和国道 L=1.7km
- 国道9号一本柳交差点改良 L=0.4km
- 春日和田山道路 L=6.9km

【平成17年度開通予定】

- 京奈和自動車道
- 大和御所道路(部分)
- 五條道路(暫定)
- 橋本道路(暫定)
- 国道163号清滝生駒道路(部分4車)
- 国道175号平野拡幅(現道拡幅)

【事業を推進している主な箇所】

- 中部縦貫自動車道 永平寺大野道路
- 京都縦貫自動車道 丹波綾部道路
- 北近畿豊岡自動車道 春日和田山道路
- 国道42号 那智勝浦道路
- 国道1号 第二京阪道路
- 国道26号 第二阪和国道
- 国道1号 水口道路
- 国道1号 栗東水口道路
- 国道8号 敦賀バイパス
- 国道9号 京都西立体交差
- 国道27号 美浜東バイパス